

探訪 北の風景 112

Fビレッジと平和の灯

北広島市

青木和弘



プロ野球北海道日本ハムの新球場「エスコンフィールド北海道」の観客動員が7月12日、今季41試合目で100万人を突破した。収容人数の上限が札幌ドームより17%少ないので、地元の関係者は「大健闘」と喜んでいると北海道新聞（7月14日付朝刊）が報じた。

コロナ禍前の2019年の札幌ドームと比較すると、1試合の平均動員数は札幌ドームが2万7368人に対して2万5012人と約9%の減少だが、収容人数の上限が減った分ほどには落ちていない。自社所有の球場だから得られるさまざまな収益を考えれば上々だろう。

JR北広島駅から約2キロメートル、徒歩25分だ。巨大な黒い三角屋根は開閉式で、日本で初めて天然芝を使った屋内球場である。太陽光を取り

入れる巨大なガラス壁も特徴的だ。野球専用なのでファウルグラウンドが狭くなり、内野側はより間近でプレーが見られると好評である。

球場の建設費は600億円で、建設開始の18年から開業10年後までの15年間の経済効果は、市の説明によると4500億円と試算されている。経済効果はまず土地の値上がりとして表れている。北広島市の公示地価は新球場の建設工事が始まった18年から連続で値上がりし、23年の平均単価は1平方メートル4万0605円で、坪単価だと平均13万4231円になり、全国順位は520位だが、前年からの変動率のプラス25・74%は全国1位である。JR北広島駅からFビレッジの間には変動率がプラス30%を超える土地もあって、駅西側の北広島団地も平均値以上の値上がりを見せている。

Fビレッジの施設は球場も含め、試合のない日も営業しているので観光で訪れる人たちが絶えないという。同市関係者によると、試合のない日の来訪は、平日で約5000人、土日祝は約1万人というから、もはや観光地の賑（にぎ）わいである。当然、街にお金が落ちる。

Fビレッジ移転の一番の課題は観客の輸送問題だ。ナイター終了後に札幌方面に帰る大量輸送に難点が残っている。せっかく快適な球場で観戦できても試合終了後に帰宅できないようでは行けない。熱心に足を運んでいた高齢ファンの姿がめっきり減っているのが気になる。JRの新駅設置は、JR北海道の120億円という高額提示に「常識



新球場「エスコンフィールド北海道」の南東側からの外観。北海道に多い三角屋根のイメージが特徴。天然芝の育成に欠かせない日差しを入れるため、広いガラスの壁になっている。こちら側にも入口はあるが、正面入口は左側に回り込んだ方にある

外れだ」「赤字補填（ほてん）か」という非難の声も上がっていて、まだ折り合いがついていない。だから設置時期は明らかになっていない。

そこで乗用車の利用が多くなるのだが、球場の駐車場不足に対応するため、周辺のスーパーマーケットなどの駐車場が試合開催日に、球場より少し高い料金設定で受け入れを行っている。店舗利用者の理解が不可欠だが、駐車場が混む時間帯をできるだけ避けて買い物をする工夫がみられるというから、市民の協力姿勢が見て取れる。

1884（明治17）年、ここに広島県人の和田郁次郎が25戸103人を引き連れて入植した。すでに中山久蔵がこの地で、寒冷地米「赤毛種」の栽培を成功させていて、和田は、この種もみによる米作を導入。開墾をみごとに成功させ、10年後には380戸1200人を超えるまでになった。



エスコンフィールド北海道の外野席からの眺め。天然芝の野球専用施設でファウルボールエリアが狭いので、内野側はより近くから野球が観戦できると好評だ。7月2日の対オリックス戦で、初めて屋根を開いてゲームが行われた

被爆地広島市の平和の灯（ともしび）からの分火が灯る北広島市の平和の灯（ひ）公園が新球場の側にある



北広島市役所の近くにある開拓公園に、「平和と繁栄」と刻んだ、旧広島市庁舎の被爆石が設置されている

この「広島開墾」は集団移住の模範とされ、当時の北海道長官から「和田村」として独立が勧められたが、「皆で開拓したのだから」と「広島村」と名付け、翌年、豊平村から分離した。その後1968年の町制施行でも広島の名は継承し、市制移行で「北広島市」と改称した。現在の人口は2万8279世帯、5万7097人（2023年6月末現在）。広島出身者の比率は減っているが、ルーツの広島に寄せる思いと、新たな街づくりに挑むフロンティア精神は受け継がれている。

だから、市役所に近い「開拓公園」には、「平和と繁栄」と刻まれた旧広島市庁舎の被爆石が設置され、ボールパークに隣接する「平和の灯（ひ）公園」には、「広島平和記念公園」の「平和の灯（ともしび）」からの分火がともされている。市は市民団体と、世界平和と友好の願いを次世代に伝えるため、「平和の灯記念事業」を毎年実施している。